

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

バックナンバーは
HPから見られます→



自然環境保全センターの野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

台風10号の影響による閉園と通行止め

8月30日から31日にかけて、台風10号の影響により七沢でも大雨となりました。斜面に大量の水が流れ、複数の場所で崩落が起こったため、谷の下に降りる道がすべて危険な状態だったことから、自然観察園は2か月間閉園させていただきました。補修できる場所から順番に作業を進め、11月1日に一部再開することができました。現在も通行止めとしている園路が残っていますが、被害状況と再開した園路の様子をお知らせします。

<①園路の崩落>

本館裏の雑木林から谷戸へ向かう園路（K3～6付近）が長さ約15mに渡って崩落しました。現在、雑木林だけを通り抜けられるように、近年使用していなかったK2～1の階段を開放しています。谷戸へ降りるには新しい園路をつくらなくてはなりません、現時点では復旧の目途は立っていません。



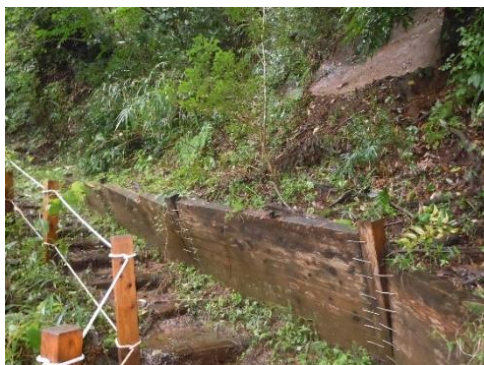
K3からK6方向



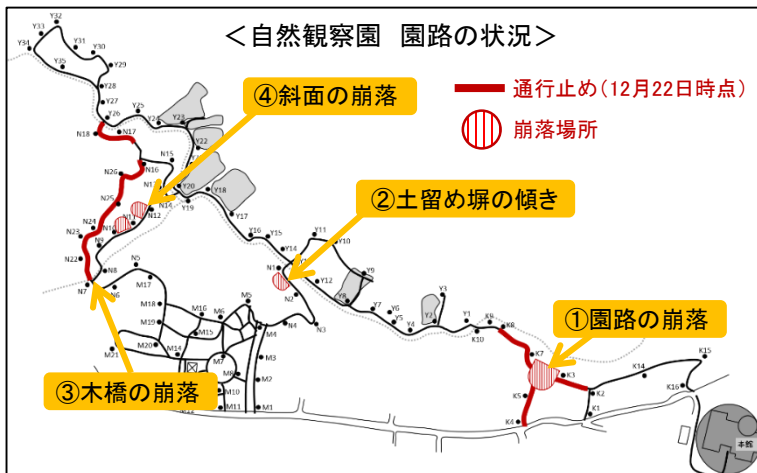
K6からK3方向

<②土留め塀の傾き>

階段脇斜面の土砂に押されて土留めの塀が倒壊しそうな状態でした。職員によって土留めを設置し直し通行可能になりました。また、斜面の上にあった枯れ木も倒木や枝折れの心配があったため伐採しました。



N1からN2方向



③木橋の崩落

N7とN22の間の小さな沢を渡る橋も崩落しました。普段は斜面から染み出した水がちょろちょろと流れるだけの源流のような沢ですが、今回は大量の水が流れて橋の土台部分の土を削ってしまったようです。橋は撤去し、沢沿いに侵食を防ぐ土留めを設置、園路沿いにロープ柵も設置しました。



N7崩落した木橋



N10付近斜面の崩落

④斜面の崩落と階段の洗堀

N7～N13間の園路脇の斜面もところどころ崩落が見られました。園路に土砂が堆積してしまったところもあれば、水の流れて洗われて階段の下が深く掘れてしまったところもありました。

階段の洗堀箇所は、ふだん丹沢などの自然公園区域の登山道で巡視活動を行っている神奈川県自然公園指導員の方々の研修として、自然保護課職員であるかながわパークレンジャーとともに補修を行いました。土のうの作り方やかけやの振るい方など、登山道で実施している補修の工法を実習として確認していました。

沢沿いの処置と階段の補修が完了し、N7～N13の園路は12月下旬に再開しました。しかし橋を渡った先のN22～N16間は引き続き通行止めです。今後別の場所に新しい園路を通す予定です。



研修会の様子



補修前の階段



補修後の階段

自然観察園の整備～沼周辺のハンノキ伐採～

11月、沼周辺（Y8～9付近）のハンノキを5本伐採しました。池の上部を明るくすることと、池の底に堆積する落ち葉を減らすことが目的です。写真ではあまり違いが感じられませんが、池の上部が開けて明るくなった印象を受けます。現在、沼の中には水生植物が生育していませんが、ザリガニの影響を受けないように囲いを作ったうえで、水生植物が育つかどうか試してみたいと思います。

また、伐採したハンノキの切り株から萌芽して木が若返ることができれば、ハンノキの葉を食草とするミドリシジミも観察しやすくなるかもしれないと期待しています。



伐採前



伐採後

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、HPで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センターでは、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

●●● 2024年7月～9月の実績 ●●●

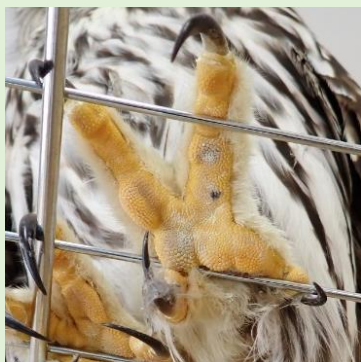
受け入れ総数は、45頭羽（哺乳類1頭・鳥類44羽）でした。

救護件数上位種		主な救護原因(人為的要因による)			
種名	件数	鳥類の原因	件数	哺乳類の原因	件数
ツバメ	9	ガラス窓等への衝突	6	該当なし	0
キジバト	7	誤認保護の疑い	6		
ヒヨドリ	5	ネコ等に襲われる	4		
スズメ	5	交通事故の疑い	1		
ハクセキレイ	5	釣り針・釣糸に絡む	1		
		粘着剤(ネズミ捕り等)	1		

放野数	
鳥類	20
哺乳類	1

この鳥なあ～んだ??

次の特徴をヒントに何の鳥か考えてみてください！
 答えは、次ページの受け入れた事例で紹介しています♪



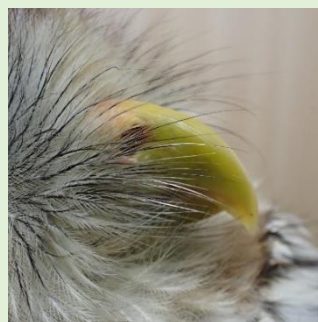
<足(写真は足裏)>
 獲物をつかむとき、前2本後ろ2本になる指に鋭い爪がある。



<大きな耳の穴>
 主に夜、狩りをするとき獲物の場所をより正確に把握するため、耳の穴は少しだけ左右非対称な位置にある。



<目>
 顔の正面にあり大きく丸い。



<<くちばし>>
 ネズミや小鳥などを丸飲みすることが多いが、肉を引き裂くこともできる。



<目の周り>
 音をキャッチする為に細かい羽が密に生えている。



<翼の風切羽>
 ギザギザは、羽音を立てずに獲物に急接近できる。



体毛はとても柔らかい。

防鳥ネットに絡んだ事例

2023年11月10日に平塚市内から持ち込まれたのは、黄色いカラスよけネット（赤丸印）に絡んだフクロウでした。右の写真のようになぜかコンクリートのブロックに挟まっており、両翼や尾羽は全体的にひどく羽が擦れていて、うまく飛ぶことができない状態でした。

猛禽類は、羽を無理に抜くと生えてこない場合があるため、古い羽が自然に抜け落ちて、新しい羽に生え換わる換羽（かんう）を待つことになりました。

大きな木箱部屋を用意して約10か月後、新しい羽が生えたので、2024年9月26日に放野しました。



救護前の現場の様子

新しい羽が生えるのを待って・・・



←全体的に羽が擦れていてボサボサ

↓両翼は皮フが見える程に羽が擦れている



大きな木箱部屋で10か月・・・

ネズミ捕り(粘着剤)に絡んだ事例

2024年11月13日に小田原市内から持ち込まれたのは、ネズミ捕りに絡んだフクロウ。団地の2階ベランダに仕掛けた粘着剤にかかったネズミを一晩放置したら翌朝、同じシートにフクロウも絡んでしまったとのことでした。全体的に粘着剤が絡んでいたため、小麦粉で粘着剤を丁寧に取り除き、取りきれない部分は洗浄して羽を乾かすなどして、11月27日に放野しました。



羽に粘着剤が付いてボサボサ



飛んで逃げるまでに回復



黄色い粘着剤シートにくっついたフクロウ

粘着剤にかかった野鳥を見つけた場合は、無理に剥がさず、まずは保護施設へご相談ください。

ということで、正解は「フクロウ」でした。夜行性ということもあって、なかなか出会う機会は少ないかもしれませんが、結構身近にいる野鳥です。市街地にも多くいるネズミが好物で、狩りをする中で上記のような事故に遭遇してしまいます。例えば、ネズミ捕りシートは屋外には置かないなど、わたしたちに出来ることはまだまだあるはずですよ。